

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)バステージ藤沢	階数	地上14階
建設地	藤沢市藤沢字中横須賀1043-5	構造	RC造
用途地域	商業地域/近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	156人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2015年8月20日
敷地面積	891㎡	作成者	(株)日本エーコン
建築面積	312㎡	確認日	2015年8月20日
延床面積	3,841㎡	確認者	(株)日本エーコン



ださい

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: A: 3.0 B+: 1.5 BEE=1.0 B-: 0.5 C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 2  
LR1 エネルギー: 1  
LR2 資源・マテリアル: 1  
LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 省エネルギー対策等級4の取得、潜熱回収型給湯器の使用などエネルギーの効率化を図るとともに、藤沢市の景観法に順守する計画、また周辺環境との調和と敷地内の温熱環境の良好化を図る植栽計画等を行いました。		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 各住戸の開口を南面に設け自然採光を少しでも多く取り入れるとともに、2面開口とすることで自然換気を有効的にできるようにしました。建材はFのもの(VOC基準製品)を採用し室内空気質環境にも配慮いたしました。	<b>Q2 サービス性能</b> 各所要箇所は点検口の設置または点検等が容易に行える形とし、また仕上材料についても防汚性の高いものを選定し、維持管理しやすいよう考慮いたしました。また地震等の災害対策として設備配管は吊り金物を使用しています。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 藤沢市緑化基準を遵守した緑化計画を行うとともに、緑化舗装や屋上緑化を設けるなど敷地内の温熱環境の向上を図りました。
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネルギー対策等級4の取得、潜熱回収型給湯器を使用するほか、照明についてもLED過半に使用します。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型給水栓・節水コマ(外構水栓)・節水型便器を使用することで水資源に配慮しました。使用部材は構造体・設備材と容易に分離できる工法とします。	<b>LR3 敷地外環境</b> 歩行者と車両出入口位置は分離し安全性に配慮しました。隣地側や道路面は出来る限り緑化をし周辺環境との調和を図りました。1階部分は一部を車路として使用するため風道の妨げとなる壁がなく、敷地形状なりに風が流れるようにしました。ごみ削減の為ごみ処理機を設置している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される